

平成28年度全国学力・学習状況調査結果より

平成28年4月19日に、小学校6年生・中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果をまとめたものです。

I 調査の趣旨

1. 調査の目的

- (1) 全国の義務教育の機会均等とその水準向上観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会・学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育指導や学習の改善等に役立てる。

2. 調査の内容

(1) 教科に関する調査

「知識」に関する問題は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを調査するものです。

「活用」に関する問題は、①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに係る内容を調査するものです。

【国語A・数学A】は主として「知識」に関する問題

【国語B・数学B】は主として「活用」に関する問題

【理科】は主として「知識」と「活用」を一体的に問う問題

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(3) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（学校）

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

II 調査の結果

1. 児童生徒の学力の状況の概要

この調査は文部科学省も注意を喚起しているように学力のすべてを表しているものではありません。下の表は、全国平均と本校の平均を比較したものです。

平成28年度	国語A	国語B	数学A	数学B
南町中学校（全国平均100）	高い	高い	とても高い	とても高い
北海道（全国平均100）	75.1 (99.3)	65.0 (97.7)	61.8 (99.4)	43.3 (98.2)
全国（全国平均100）	75.6 (100)	66.5 (100)	62.2 (100)	44.1 (100)

2. 各教科の分析と対策

(1) 国語

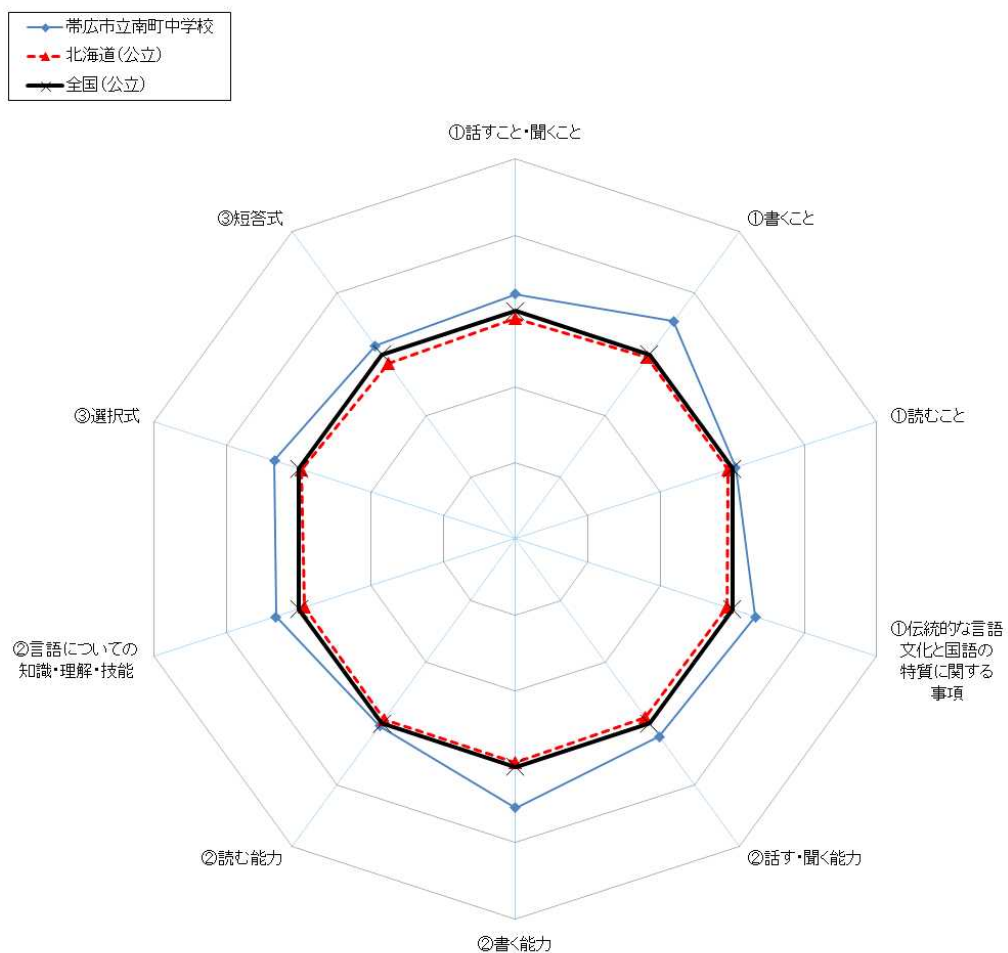
①国語A 主として「知識」に関する問題

【成果】

「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と平均正答率が高い数値となっている。特に、「書くこと」については全国平均を大きく上回っている。

【課題】

「言語についての知識・理解・技能」を問う問題で、「一部の漢字」、「文字の形や大きさ、配列に注意して書く」ことに課題がある。



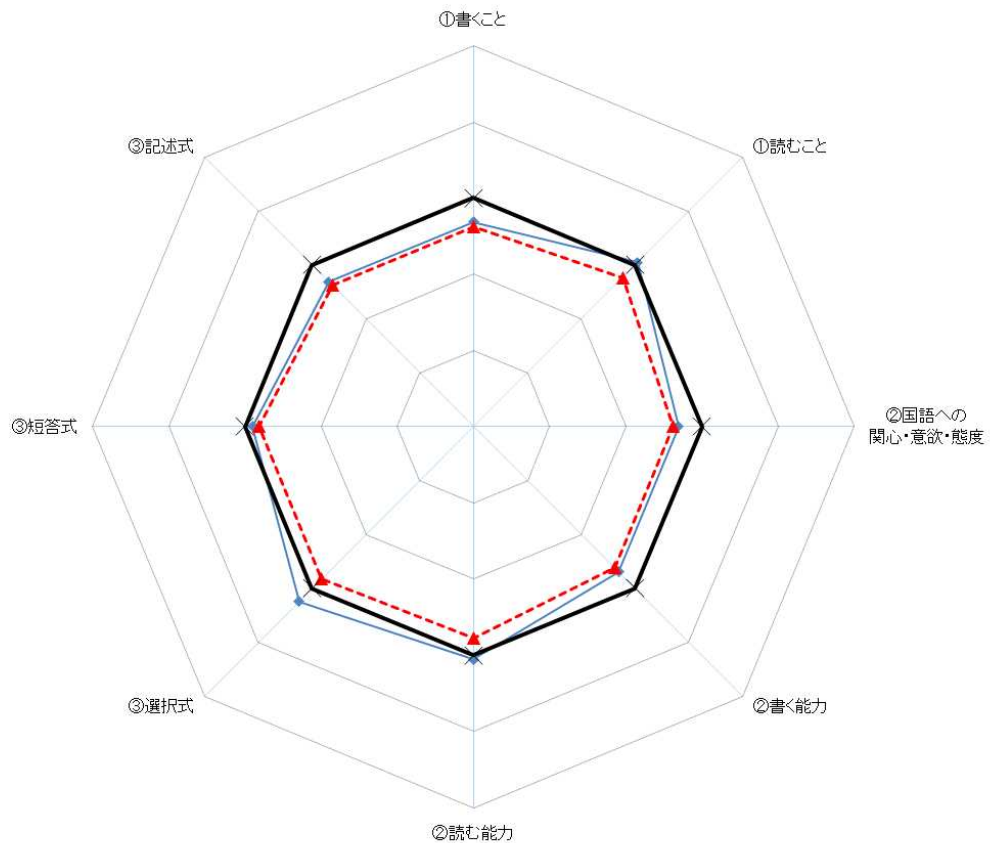
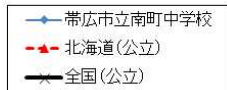
②国語B 主として「活用」に関する問題

【成果】

「読むこと」を問う問題の平均正答率が高い数値となっている。

【課題】

「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」と総合的に国語力を使う問題に課題がある。



【国語の対策】

- ① 「文法」など基礎的な言語事項の習得のための学習活動を繰り返し行う。
- ② 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨をとらえる場面を多く取り入れる授業を設定する。
- ③ 自分の考えや立場、根拠を明確にし、わかりやすく伝える力を付けるため、また、観点を明らかにして聞く力を育てるため、話し合いの場面を多く取り入れる授業を設定する。
- ④ 習得した知識や技能を活用し、多種の情報を用いて、なじみの薄い語句や使用頻度の低い漢字などを調べ、語彙を豊富になるような学習の場を設ける。

(2) 数 学

①数学A 主として「知識」に関する問題

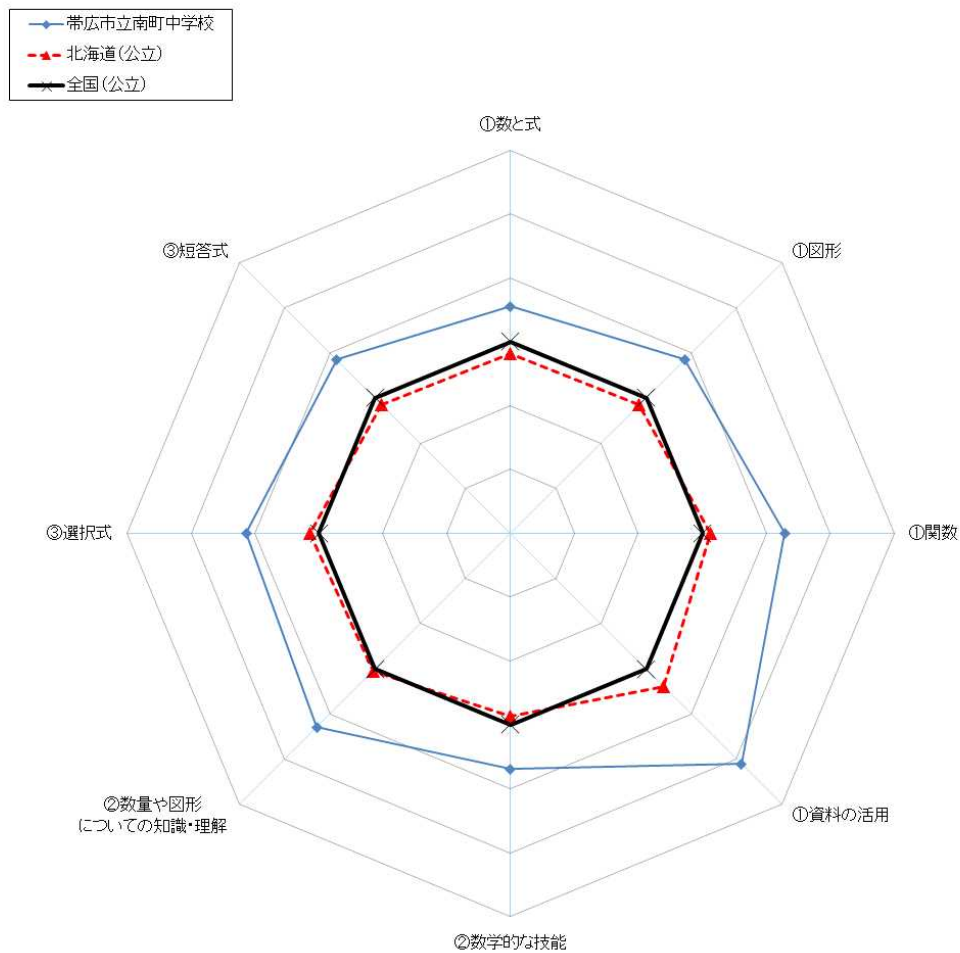
【成 果】

「図形」の領域について問う問題の平均正答率が高い数値となっている。

「資料の活用」については全国平均を大きく上回る結果となった。

【課 題】

「数と式」「図形」の領域についての「知識・理解」、「数と式」の領域について「数学的な技能（文字式）」を問う問題に課題がある。



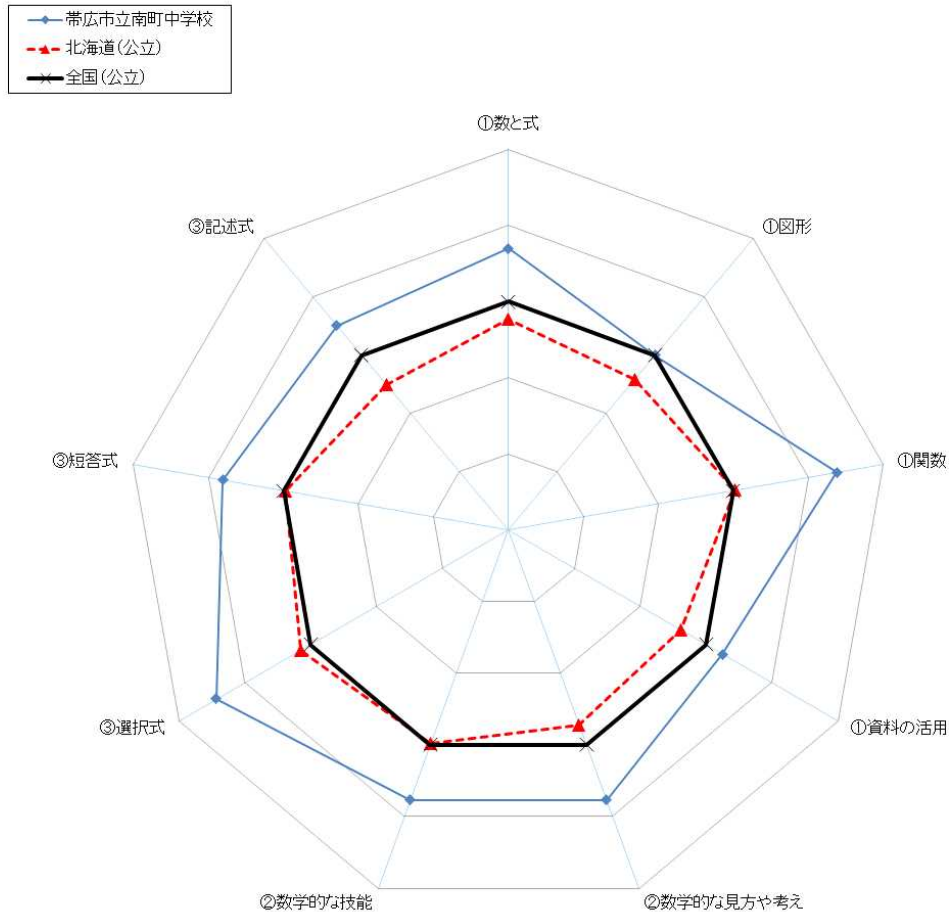
②数学B 主として「活用」に関する問題

【成 果】

「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」共に全国平均を大きく上回る正答率となった。

【課 題】

「図形」「関数」「資料の活用」の領域について「数学的な見方や考え方」を問う記述式問題に課題がある。

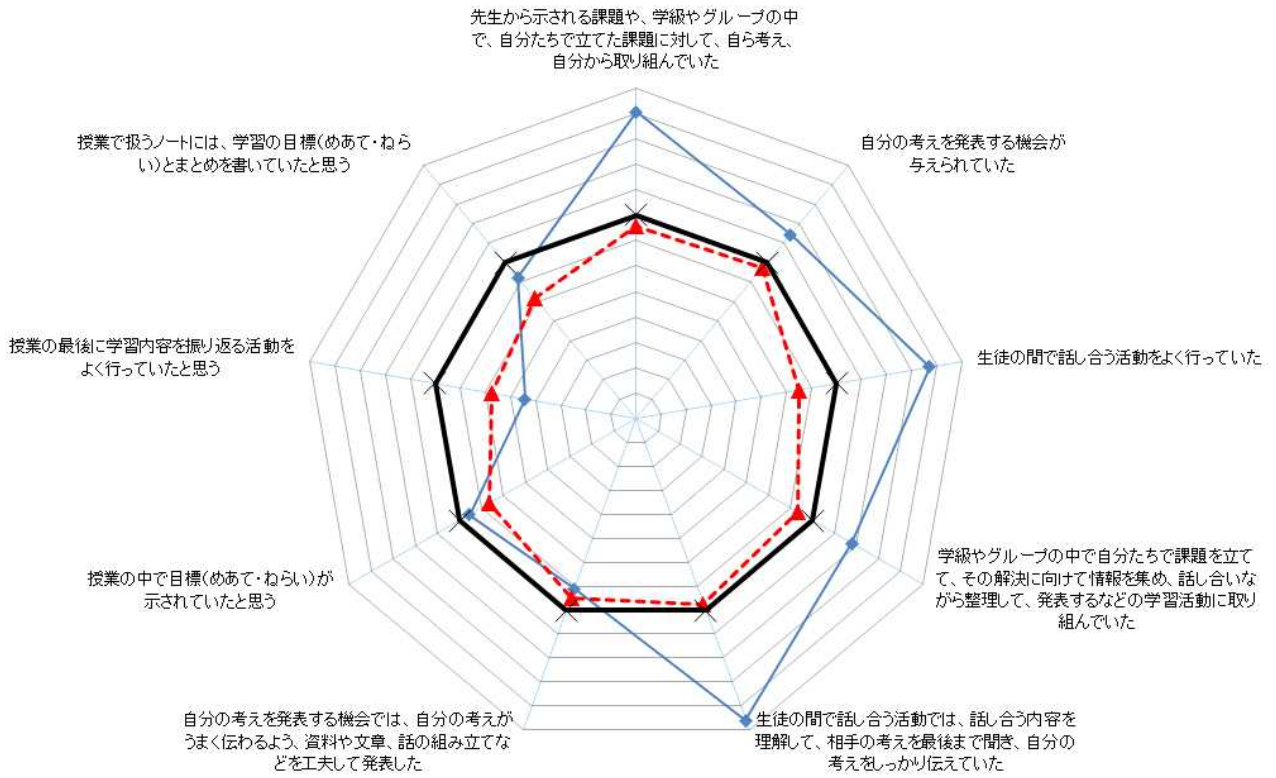
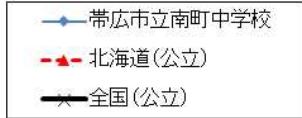


【数学対策】

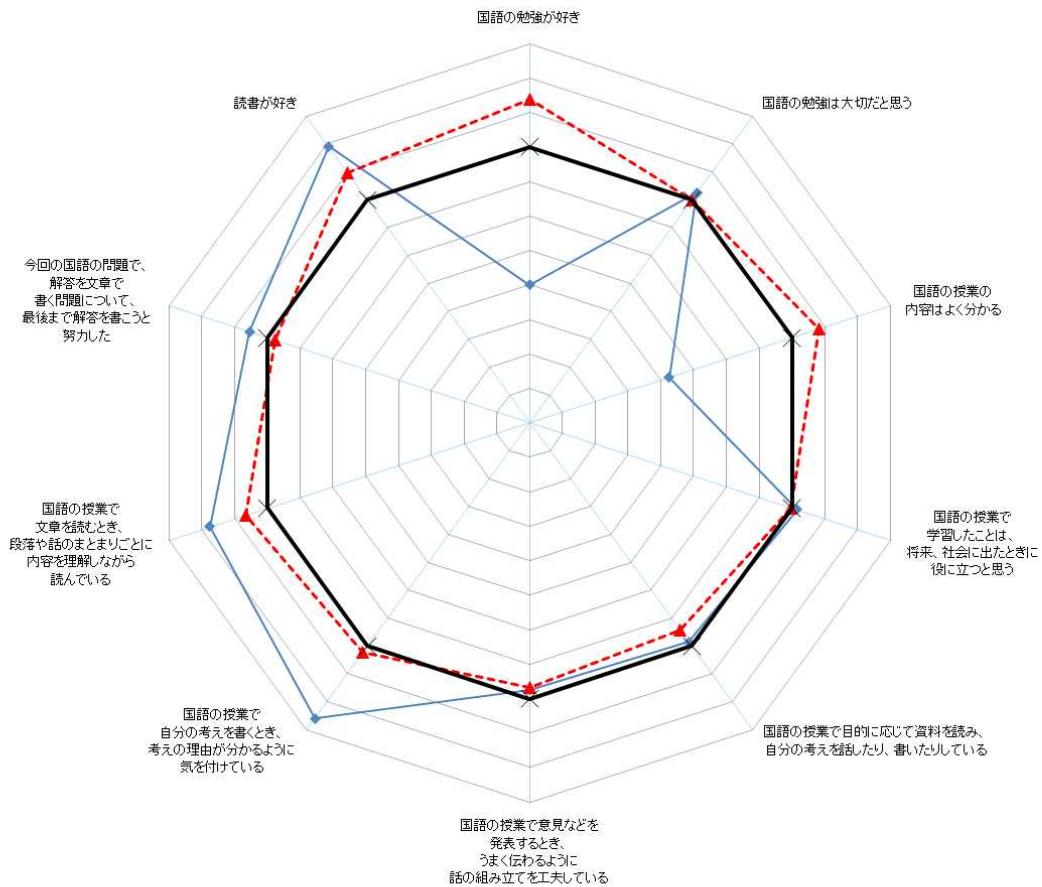
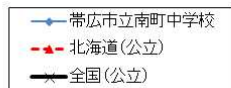
- ① 課題を持った家庭学習を励行し、既習事項のより確実な定着を図る。
- ② 単位時間の見通しが持てる課題を設定し、習得した知識や技能を「活用」する問題を取り入れた授業を配置する。
- ③ 既習事項をもとに、構想を立て、根拠を明確にして事柄が成り立つことを説明する場面を授業の中に設定する。(言語活動の充実、アクティブラーニングの導入)
- ④ 資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現、考え方をを用いて判断の理由を説明する活動を充実させる。

3. 生徒質問紙回答状況

(1) 授業について



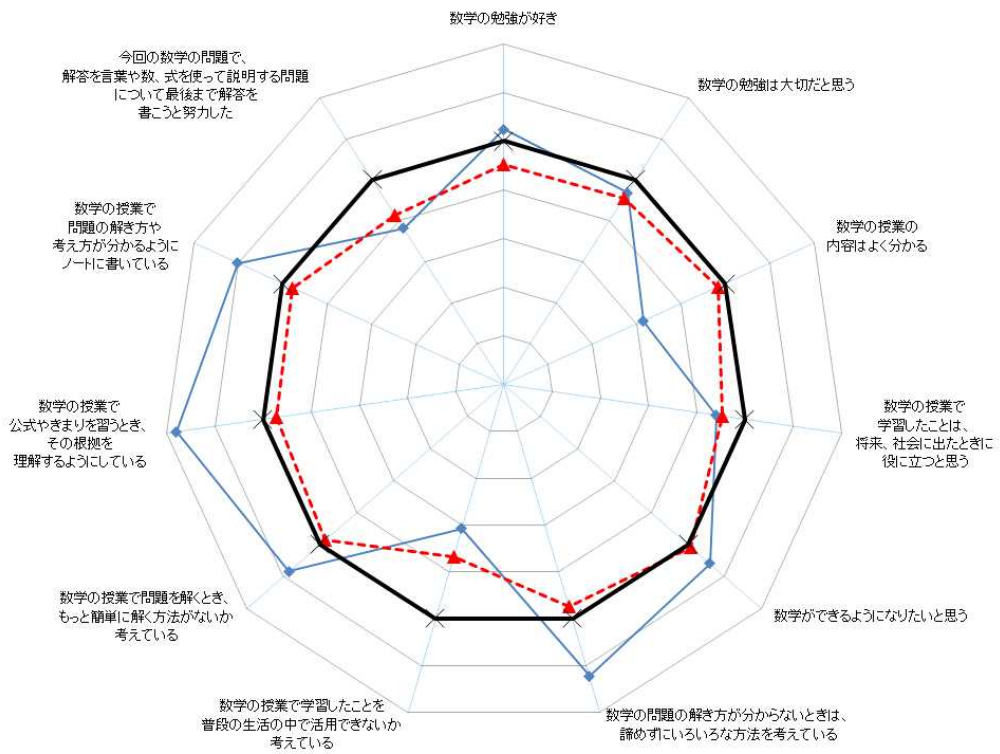
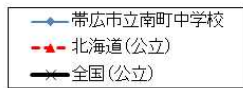
(2) 国語の学習



分析（本校の傾向）

- 読書が好きな生徒が多く、読むときに段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読むことを意識している生徒が多い。
- △ 国語の勉強への意欲や理解に課題を感じている生徒が増加した。

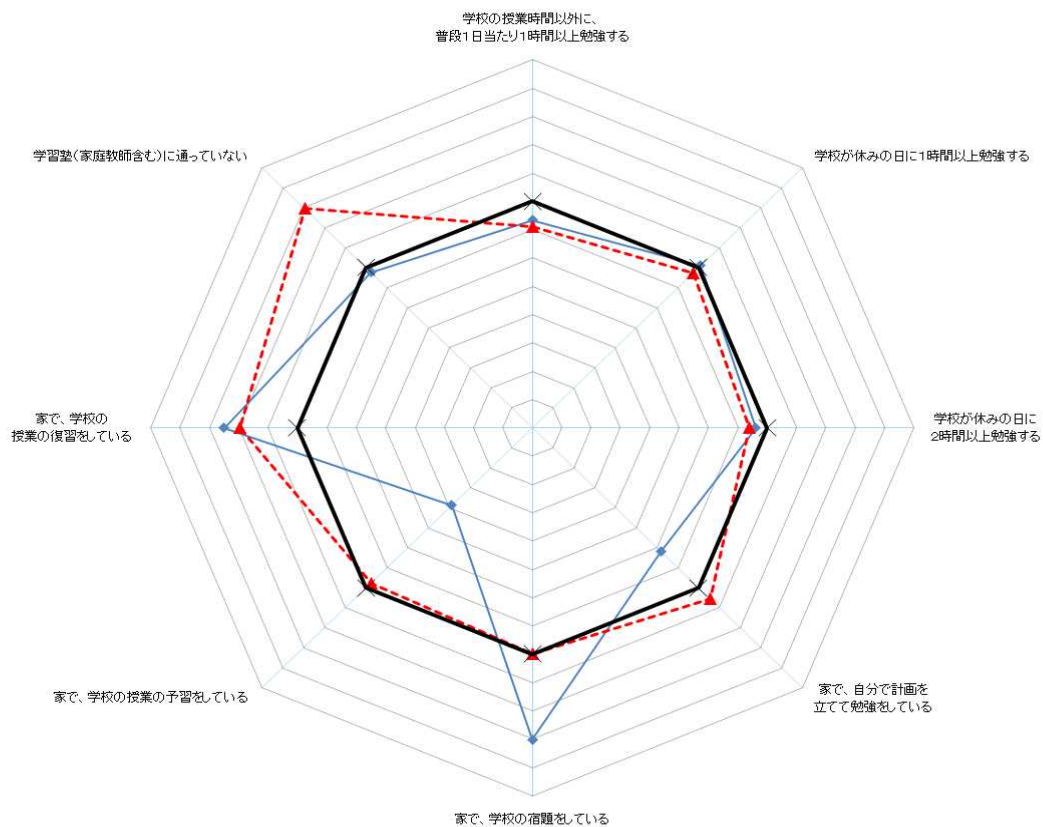
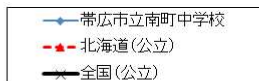
(3) 数学の学習

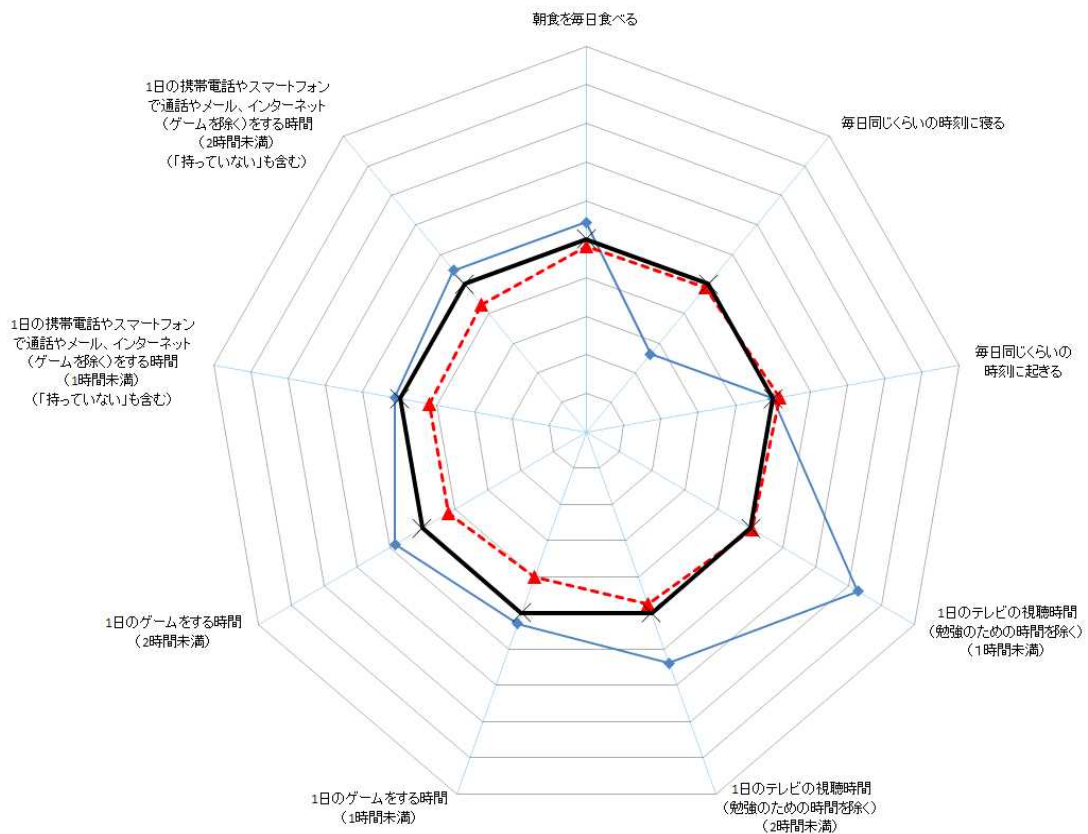
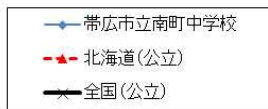


分析（本校の傾向）

- 授業の中で、問題を探求することが大切であると考えている生徒の割合が多い。（全国平均と比較）
- △ 生活の中での数学の活用、社会に出たときに役立つことが実感できる意識に課題がある。

(4) 学習・生活習慣について

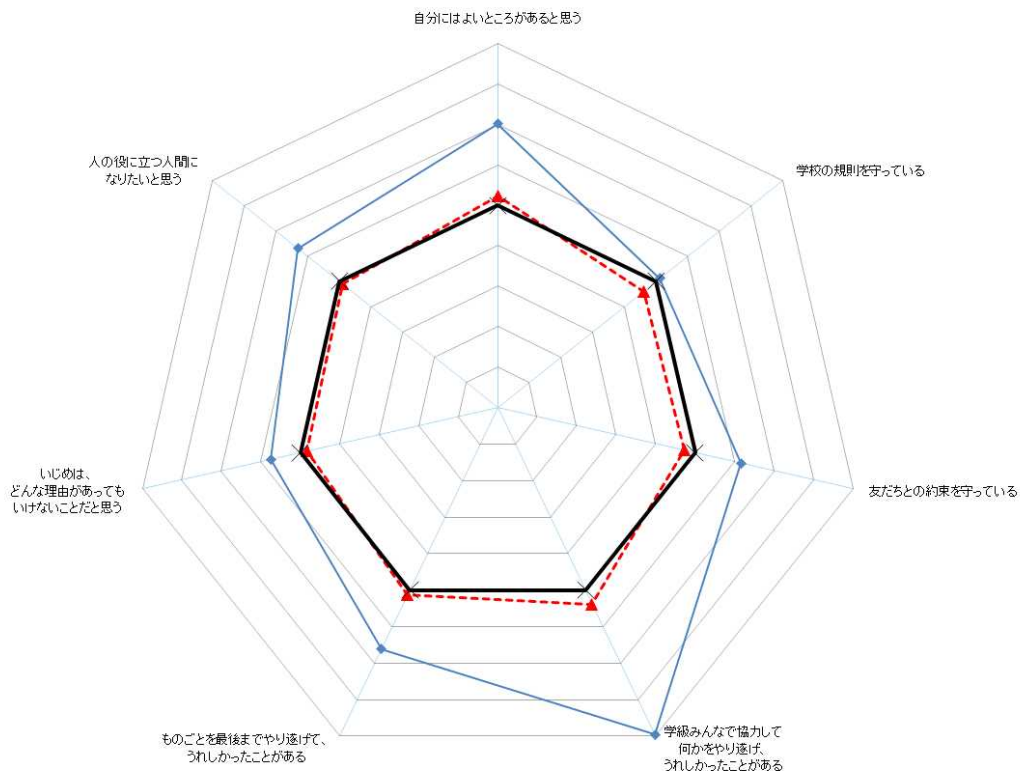
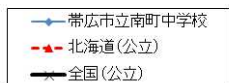




分析（本校の傾向）

- 寄り添う指導を軸として授業でも一人一人の生徒に沿った授業展開ができています。
- 学校生活に充実感、満足を感じる生徒が多い。仲間とひとつのことをなすとげることは素晴らしいことであるという考えが定着している。

(5) 自尊意識・規範意識について



分析（本校の傾向）

○ 全体的に規範意識・自尊心が高く、落ち着いた学校生活を送ることができている。